

ランチョンセミナー のご案内

つくば国際会議場
1階大会議室101(D会場)

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3

12/9(月曜)
12:00~13:00

演題
1



PXBマウスおよびPXB-cellsを応用した 次世代病態モデル動物および評価系の構築

石田 雄二

株式会社フェニックスバイオ 研究開発部
(南カリフォルニア大学)

高度にヒト肝細胞によって置換された肝臓を有するヒト肝細胞キメラマウスであるPXBマウスは、医薬品候補化合物のヒト型代謝パターンや薬物動態の優れた予測モデルとして利用されている。他方、宿主特異性が高いB型およびC型肝炎ウイルスの貴重な持続感染モデルとしても広く知られており、新規治療薬の開発や基礎研究等にも幅広く用いられている。多岐にわたる肝細胞の性質には様々な種差がある事は良く知られており、ヒト化された肝臓を持つキメラマウスの特性を考えると、ウイルス性肝炎以外の肝関連疾患の基礎研究や治療法の開発においても、今後有用なモデル動物になりうると期待される。

今回のランチョンセミナーでは、我々がPXBマウスを用いて開発を進めている非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)モデルや、PXBマウスから分離された新鮮ヒト肝細胞(PXB-cells)を用いた *in vitro* 肝毒性評価系などについて紹介する。

演題
2

PXB-cellsを用いた *in vitro* 薬剤安全性・動態評価への応用性

篠澤 忠紘 先生

武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所



ヒトにおける薬剤性肝障害を初期薬剤開発段階で予測するために、これまで主に初代ヒト凍結肝細胞及びヒト株化肝細胞を用いた動態学的または毒性学的アプローチが試みられてきた。ヒト肝キメラマウスより単離されたPXB-cellsは、同細胞種に比べ、遺伝子発現、機能及び形態学的な特徴が異なり、これまでとは異なる肝障害予測戦略を考えうるツールになることが期待されている。

今回、PXB-cellsの特徴を紹介するとともに、胆汁トランスポーター阻害評価系や反応性代謝物予測評価および長期培養における肝障害評価への応用性について紹介する。

100名様分の昼食をご用意しております。
セミナー当日、整理券を配布予定です。

座長 立野(向谷) 知世 株式会社フェニックスバイオ常務取締役 研究開発部長